

12P

0233

第三十軍作戦記録 追加

(新京秘話)

昭和二十三年十月

陸軍

1069

目次

- 一 高杉參謀ト坂本參謀長
- 二 村上副官ト山岸參謀
- 三 末光師團長ト坂本參謀長
- 四 落合軍政司長ト原參謀

(高橋久是堂明)

陸軍

一、高杉參謀ト坂本參謀長

八月九日開戦トナツタ 新京ハ充員召集ヲ受ケテ人連

テ雜踏ヲ極メテイタ

兵營ニ脊廣服ノ儘ノ人、軍服ヲ着用シテモ銃劍

ノナイ人が多カツタ

ソ軍機甲部隊ハ破竹ノ勢カテ國境ヲ越ヘテ新京

ニ向ツテ来ルト言フニ 新京ノ兵營ニハ手ブラノ兵隊

が敬禮演習ト連歩行進ニ餘念ガカツタ

之ヲ見テ怒ツタノガ 関東軍司令部ノ人達デ師團

ハ無能デアルトイフ事ニテリ 其ノ晚 第百四十八師團

參謀長 大佐 坂本 眠ガ 関東軍司令部ニ呼ビ

ツケラレ 第一課 高杉少佐 參謀カラ 一面罵サセタ

(坂本大佐ノ言)

第百四十八師團ハ 新京ニ駐屯シテイルレトモ 第三ノカ

一面軍隷下、第三十軍ノ其ノ又隷下部隊ニアル
 関東軍ヲ一方、方面軍ニ傳達シタ事ハ、未端ノ師團迄
 直ク傳達セラルト思フイロシイ。地理的ニ言ハバ
 新京ヲ出タ情報ハ奉天ニ行キ梅河口ニ行キソシテ
 新京ニ逆モドリテ師團ニ傳ハルガ、況シテ梅河口ノ
 第三十軍司令部ハ通信機關ヲ持ツテイナイ
 新京ノ師團ニ関スル限リ總軍司令部ガ親切ニ
 指導キシナケレバ、勤クモノテハナ
 関東軍司令部ガ不膝下ノ師團ニ情報ヲ知ラセタキモ
 不親切デアレバ、編成業ヲ取リ締レテ、関東軍司令
 部ニ連絡ヲトラス、師團ニモ、主夏任ハマル
 坂本參謀長ハ全般ノ状況ヲ知ラセズニ、師團ノ無能ヲ
 難詰スルトハ、何事カ。特ニ青ニオノ高杉ノ如キ奴ガ
 度ノ威ヲ借リテ威張リ散ラストハ、心外ニ堪ヘヌト、
 ポンパン

(高橋久是堂卿)

怒ツテ 歸ヘツレマツタ

関東軍司令部ニ對スル不信任ハ民間側ノミナラズ
才藤下ノ部隊カウモ斯クノ如クシテ出テ来タ

ニ村上副官ト山岸參謀

八月十四日夕 通化カラ関東軍司令官 山田大將

以下 幕僚陣カ新京ニ歸還シタ

第三十軍司令部ハ関東軍司令部廳舎ノ片隅ニ

ニ押シヤコシテ執務スルノ止ムナキ至ツタ

上級司令部ト同居ハ嫌ナモノテアルガ特ニ不快デアツ

タノハ專屬副官少佐 村上義光ノ存在デ

満軍ノ北月叛ニ伴フ 市内ノ銃聲ヲ聞ク度ニ

直クニ私ノ所ヘヤツテ来テ 總司令部閣下ガ心配

シテオリマス 今ラノ銃聲ヲ調ヘテ 下サイレト 執拗ニ

陸軍

ヤツテ来ルコトダ

小哨長デハアルマイルニ里大ナ仕事ガ山積マシテイル

軍ノ作戰主任參謀ガ一發ヤニ發テ銃聲

ノ相手ニナツテイルワケニモ行ヤス イ加減ニアテラツテ

イタテトモ アマリ五月蠅イケテ遂ニ「馬鹿野郎」ト

怒鳴リ上ケタラ其後來チナツテシマツタ

現ラク山田大將ハ別ニ利ニモ止メタイノヲ專屬副官

的奴隷根性ヲ發揮シテマツテ來タケマラウ

十五日ソレカラ又カ 情報主任參謀ノ少佐山岸武

ガ戰車隊第三十五聯隊ノ中隊長戰車ノ矢立ニ乘

ツテ城内ヲ偵察ニ出カケ又止セバヨイニ関東軍參謀

少佐入江義十郎ガ一緒ニ来ツテ行ツタ

戰車ノ進出ハ満軍ノ敵愾心ヲ煽ルダケテアルノヲ堅ク

城内進出ヲ禁シテアツタガ 案ノ定 城内デ勿忽ケ兩側ノ

(高橋久地蔵納)

建築物ニ階カラ手榴彈ヲ乱投サレ戦車ハ急遽
反轉シテ歸ヘツテ來タガ天蓋上ノニ名ハ戦死シテ
シマツタ

山出午參謀ハ寢具山テパートノ前ニ投ケ出サレ入江參謀
ハ関東軍憲兵司令部ノ前ニ投ケ出サレ戦車ハ
関東軍司令部左前ノ四又路テ火火上シテイタ

三末光師團長ト坂本參謀長

十九日第三十軍司令部ハ公主山嶺ニ轉進シテ行ツタガ
私ハ新京殘留部隊處理ノタメ第百四十八師團司
令部ニ殘ツタ

其ノ晚末光師團長ガ私ヲ私室ニ呼ビテ「君ハ何ノ
用事デ殘ツタノテスカ」ト質問サレシテ私ハ「軍司令部
トシテハ新京ノ後仕末ガ心配デアリマス」トテ新京駐屯地

司令部トシテ残之ル 第百四十八師團司令部ノ御仕事
 シキ傳ヒニ參リマシタト申上セルト ア、ソウカレト、事
 デアツタガ 「何故ソノ事ヲ聞クニテカレト反問スルトモヒ
 難ワソウニ」 安良ハ參謀長ト口論シテ、數日參謀
 長トロヨリイタ事モヤ 夫レガ軍司令部ニ聞ヘテ君ヲ
 監督ニ殘シタレハナカトスルヲ廻シタ次第デス」トノ事
 カツタ
 其ノ話ヲ承ルト色々経緯ハニ様デアガ 編成見結
 ノ會食ノ際 師團長ト參謀長ト話ノ中ニ師團長
 ノ上カラ「僕ハ參謀ハ大嫌ヒダ 參謀ノ意見ハアマリ聞き
 度クナイ」トイフ意味ノ事ヲ言ツタラシク 坂本參謀長ハ
 自身ニ對スル個人的不信任ト解シ 師團長ノ「カハ
 「御自分ハ大駒子校コン出テイナイガ 實力ハ相當ナモガ
 ントイフ事ヲ 輕ク自慢シタツタラシイ

(高橋久基堂納)

ソシテ第一回目ノ宴會ノ席上 酒氣モ手傳ツテ相當ナ
口論ヲヤツタニシ

事安身 末光師團長ハ幕僚ヲ相手ニセサル 独裁ヲヤツタ

ラシク 七月ノ末私が未タ奉天ノ方面軍參謀ヲアツタ

トキ 新京ノ築城計畫トシテ師團長 直筆ノ計畫ヲ

參謀部任 井口大尉(持志)ニ持タシテ寄越シテ来タ

安木ハ全ク師團長 独リノ構想ニテ 方面軍ノ企圖ニ

副ハイトコロガタク 幕僚ノ研究組上ニモ来タ形跡モナク

説明ニ来タ 井口大尉モ 何が何ヲフワラス コレハ相當ナ

師團長 閣下ト思ツテイタ

所が終戦後 ソ軍が進駐シテ ソ軍ノ市民ニ對スル暴行

が甚シクナツテ来タニ 駐屯地司令部トシテハ ソ軍司令官

ニ陳情スルコトナリ 坂本參謀長が然ルヘク 起安ホトコロガ

提出ノ直前ニ 師團長がソ軍ノ暴行が繼續セラル

ナラハ 断呼タル處置ヲトルトイフ立意味ノ事ヲ附ケ加ヘ
 參謀長ニハ何モ言ハズニ陳情書トシテソ軍司令部
 ニ出シテレマツタ
 怒ツタノハソ軍司令官(ザバカカ方面軍司令官)其
 大將(テアツタ)ニテ僞傍ノ癖ニ戰勝軍ニ對シ断呼タル
 處置ヲトルトハ何事デアルカトイフ事ニナリ當時連絡
 係女員長テアル關東軍第二課長淺田大佐ガ
 叱咤身サシ師團ノ參謀長ガハヤホヤシテ居ルトイフ事
 ニツテレマツタ
 坂本參謀長ハカンカレニツテ怒ツテシヨヒ師團長ト
 參謀長トノ間ノ溝ハ益々深クナリタガ九月四日師團長
 ハ在京將官トシテソ領ニ連行サレ事ハ解決シタ

(高橋久見宛納)

四落合軍政司長ト原參謀

陸軍

八月十四日軍事部軍政司長中將落合鎮彦が

敗戦後ニ於ケル滿洲国軍ノ處理ニ就キ、關東軍

司令部ノ責任者ニ質問ニ奉タ、所ガ十四日晝ハ

關東軍首腦部ハ通化ニ居ルニテ要領ヲ得ズ、結局

私ノ所ニヤツテ來タガ私ノ方ハ作戰開始以來滿洲国

軍ニ對シ、ドシテ總軍ノ指示、命令ガ出テイルノカ、ヨク

知ラナイシ、ヤツトシテ四課ノ原善四郎參謀ヲ見付ク

タムテ、直接ノ責任者デハナイト思ツタガ、滿洲国政府

ニ最モ關係ノ深イ第四課參謀デモ、アノデ一語ニ話ラ

聞クコトニシタ

原善四郎ハ、酒ニ氣シ、世中ニモイタリ、其ノ態度ハ全ク

出鱈目デ、私ニ對シ、君ハ長イ事、關東軍ニ勤務カシキ

イルシ、滿洲国軍ニ就イテハ、理解ノ深イ筈デアリ、現地軍ノ

作戰主任參謀トシテ 思フ様ニヤレ コシナ事ヲ俺ニ相談
 スル等キハ以テノ外ニアル ヌコシナ事ヲ滿洲國側カラ質問
 シ又ケル迄モ自ラ 現場シツキテドンドン處置シロシ
 ト大塚子校教官モドキテ私ヲ訓誡シタ
 彼ハ関東軍司令官部首腦部が通化轉進以來
 毎日本酒ばかり飲ンデ ぶろくシテ居タラシイ 関東軍
 司令官が信用ヲ落シタノモ當然デアアル
 落合中將ノ話ニヨルト 軍事部モ滿系軍官ハドンドン
 離脱シ收拾困難ヲ呈トノ事テソレナラ 滿洲國軍ハ自然
 解消デセント極メテ無キ身任ナ話シ合ヒテ別レテシマツタ
 原善四郎ニ對シテハ 温厚ナラ 落合軍政司長モ不快ヲ
 禁シ得ナカッタラシイ
 話ハ別ニアルガ 原善四郎ハ 第四課ノ其主計中佐
 ト共ニ 滿洲國ノ大金ヲ掃世ヤシテ 新京市内ニ雲霞

陸軍

レテシ 次イデ 同シタオ四課 參謀 少佐 北里 三用カモ
 新東京市内ニ 西ニ置シラシタ 又 同シタオ四課 參謀 中佐
 吉田 曲辰 夫雄ハ 總司令部カ 武装解除ヲ 受テテ
 南復ノ 伴虜カ 收容所ニ 連行サレリ日 開襟 春広
 姿ヲ 片手ニ 豚肉ト 忍ラズラフゲテ 市内ノ 巢カラ 朝歸
 ヘリテ 末タ 原因 動機ハ 何デアラウトモ 其ノ 地位ヲ 利用シテ 大関 東軍
 ノ 最後ヲ 穢シタ 彼等ノ 行動ハ 現在 彼等ガ 如何ニ
 民主化サレ 様ト 徹底的ニ 其ノ 罪ヲ 問フベキデアリト 思フ

（白粉）

1082